



医療・福祉が教えてくれたこと

大田区立糀谷中学校 三年 佐々木 杏

私が小学六年生だった時、一緒に暮らしていた祖母が在宅医療を受けていました。祖母の部屋には電動ベッドや点滴スタンドなどが置かれ、入浴などは看護師さんやヘルパーの方が行ってくださったことを今でも鮮明に覚えています。当時、父がこれらの行政サービスは税金が使われているということを知っていました。

在宅医療では、福祉用具の手配、身の回りのお世話などに税金が使われているそうです。ベッドに横になっている祖母を起こす手伝いをしましたがとても大変でした。しかし電動ベッドに変わったことで負担が減り、介護しやすくなりました。税金のおかげで介護する側の人もされる側の人もより良い生活が来ているというのを実感しました。

また、中学二年生の時、職場体験がありました。私は祖母との経験から医療・福祉の職場を選択し、老人ホームへ体験しに行くことになりました。実際に職場に入った時、私が想像していた老人ホームと違い、内装は明るくゴージャスで広い廊下、ご入居者の方を配慮した構造の手すりなどを見て驚きました。職場で働いている方が、ご入居者の方が安心して暮らすことができ、広い廊下や手すりのおかげで介護がしやすいとお

しゃっていました。この費用も税金でまかなわれているということを知り、インターネットで知りました。税金は人と人が支え合って生きていくのに要するものだと感じました。

私が普段生活するのにも様々な税金が関わっています。例えば、学校で支給されている教科書は税金によって無償で使用することができます。カラーユニバーサルや環境に配慮した材料で作られ、私達学生のことにもよく考えられています。このように税金が使われることで暮らしやすい町や国が作られているのを色々な経験を通して、学ぶことができました。

医療や介護に関わる機会があったからこそ、人や病気、そして税金についてくわしく学ぶことができたと思います。人々を支えるために税金が使われ、人が人を支えるというのが成り立っていると考えました。税金が無いと支え合いながら生きてゆくの大きな負担がかかると思います。多様性という社会の中で生きる私達には、税金が必要だと感じます。

私に医療・福祉や税金を知る機会をくれた祖母に感謝したいです。祖母との経験があったからこそ、税金の大切さを知れました。そして、将来医療・福祉の仕事に就きたいという夢も出来ました。在宅医療や職場体験で出会った方々にも感謝したいです。これから先の未来を生きるにあたって私は、身の回りにあふれている税金の大切さや関わり方、医療・福祉の世界で学んだことを大切に生きてゆきたいと思います。